


「備え」を実践するために
郷土の成り立ちを理解する

中川和之
(社) 日本地震学会普及行事委員長
東京いのちのポータルサイト理事
時事「防災リスクマネジメントWeb」編集長

06.1.30 国民運動専門調査会 1



一人一人が災害をイメージする

正常化の偏見

たぶん大丈夫、私には関係ない・・・

災害について実感を持つには
「脅し作戦」では長続きしない
考え続けたくなくなるから

市場性・合理性で社会化＝目黒式
×自然の支配・コントロール ○つきあう・読み解く
「いつもあなたの目の前の風景」

腑に落ちる、納得する

06.1.30 国民運動専門調査会 2

地震火山こどもサマースクール

地震の山だった六甲山を
意識しないで暮らしていた地元は

全島避難の大島の棧橋で
無意味の苦しみを感した島民は

天然記念物「丹那断層」の
意味を知らない地元の子供たちに

その地を愛し
納得して暮らし続けていく
次世代を育てていくために

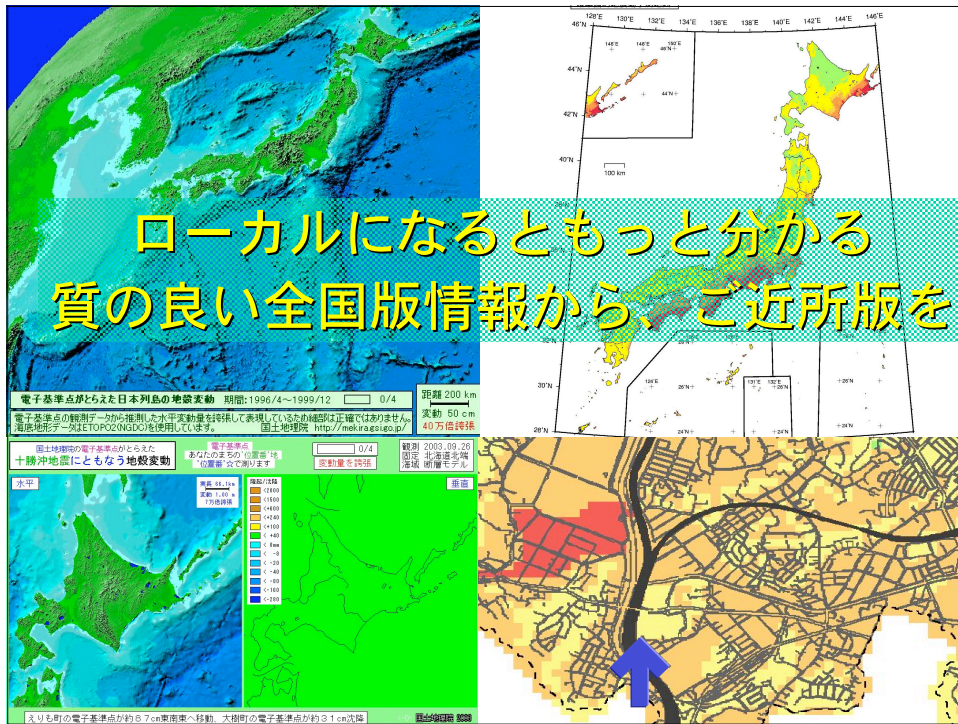
専門調査会 3

地震・火山こどもサマースクール

次世代に自然災害の本質をどう伝えるか

- ❖ 被災体験から感じた無意味の苦しみと、理解・納得することの大切さ＝大島全島避難（桑原@大島高）
- ❖ 脅しの防災の限界と、適切なりスクコミュニケーションを＝静岡で育った実感（小山@静岡大）
- ❖ 阪神大震災で痛感した減災につなげる地球科学教育の重要性＝（数越@須磨友が丘高）
- ❖ マスコミの限界とBS活動からの子供たちの可能性＝（中川@時事）ーらの気付き、思いから
- ❖ 手触りの実験へのこだわり＝（岡本@大阪教大付属高、佐藤@平塚山城中、相原@西湘高、宮嶋@道立理センら）

国民運動専門調査会 4



ここに住んできた人たちは 災害とどうつきあってきた？

- ❖ 自然のなりたちは？
- ❖ まちの歴史は？
- ❖ どこに住んできた？
- ❖ 自然をどう使っていた？
- ❖ リスク=危ないところはどこに見えるか？
- ❖ 住むのに大切にしたいところは？
- ❖ 経済活動=くらしを続けるのために必要なところは？
- ❖ よそから来た人に見て欲しいところは？
- ❖ まちを見いだす力を持ってもらう。

06.1.30 国民運動専門調査会 6




郷土で先人たちは何を？
私たちの「稲むらの火」を

一日前プロジェクト＝体験者を語り部に
適切な知識を伝え、普及啓発の当事者に

災害教訓の継承専門調査会の成果も


7



たくさん身近な材料を集めよう
ツールを作ろう

- ❖ DIGやクロスロード、まち探検、わいわい防災マップなど、道具は増えてきた。
- ❖ いのポタは「人防1.17シアターの”衝撃映像” + CD 説法師」、「地震のこと話そう」で動きが始まった。
- ❖ 全国のたくさんのリソースを集めよう。
 - ❖ 著作権フリーの災害写真を、博物館の資料を、ウォッチングルートを・・・、
- ❖ 郷土史家と協働で、地元の歴史探しを。明治の地図の読み解きを。各地に天然記念物もあるぞ。
- ❖ 「みんなの防災」に集めて、みんなで使える資料庫に

06.1.30 国民運動専門調査会 8



災害資料集の「ご近所版」

私たちの災害史作りを地域活動で

- ❖ 専門家と行政、地域の協働でモデル作り
 - ❖ 全国版+広域版+都道府県版+市区町村版+学区版+町内会版+ご近所版
- ❖ それぞれの稲むらの火＝歴史の物語や、現代の語り部を盛り込もう
- ❖ 学区版以下は、私たちの活動で（できれば次世代の手を加えて）完成。作成プロセスから学びを
- ❖ それは＝防災マップ+観光マップ+地域の歴史資料集+地域にあった減災方策+事業継続のヒント集etc
- ❖ できあがったらCDに、ブックレットに

06.1.30 国民運動専門調査会 9